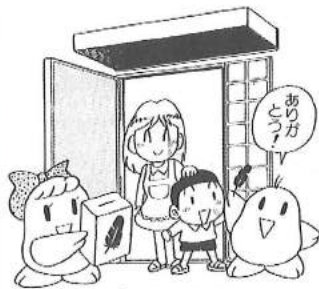




おかげさまで70周年

地域の福祉、みんなで参加



10月1日から12月31日まで実施します。みなさまのご協力をお願いいたします。

©中央共同募金会

社地発第167号より



社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

770-0943 徳島市中昭和町1丁目2番地 徳島県立総合福祉センター内  
tel: 088-654-4461 fax: 088-654-9250  
e-mail: info@e-fukushi.jp http://e-fukushi.ict-tokushima.jp/

### 新しい地域支援事業への社協の取り組み

【社協が地域支援事業に 取り組む意義】

平成27年4月の介護保険制度の改正に伴い、介護保険サービスのうち「要支援」向けの介護予防サービスの一部が自治体の「総合事業」へ移る制度の見直しがなされることになりました。  
要支援の方の生活を支える体制を地域につくると同時に、高齢者自身が役割を持って社会参加できる環境整備に取り組んでいくことが求められており、これは、従来社協が進めてきた地域福祉の実践のそのものといえます。  
この事業への取り組みは全社協の研究会でも次のように位置づけられています。

『平成27年4月にスタートした新しい地域支援事業は、「地域の支え合いの体制づくり」を目標として掲げ、住民とともに地域のニーズ把握や資源開発を進めるものであり、社協はこの仕組みづくりに真正面から取り組み、地域福祉を推進する力にしていくなければなりません。』（平成28年6月30日、全社地発第167号より）

要支援者等を支える「地域づくり」のプランを社協から提案する

#### 重点課題

- 生活困窮者自立支援制度や社会福祉法改正、地方創生等の動きとも連動し、地域福祉推進の構想を具体化していく

#### 基本的な考え方

- サービスの受け皿づくりだけにとらわれず、地域福祉の推進につなげる
- 住民と専門職の協働を進める
- 総合相談や権利擁護と連携し、生活管理が必要な人への支援を確保する

#### 取り組みのポイント

協議体

- まずは学習会や交流会からスタートする
- 要綱から入るのではなく、実質的な協議ができる組織をつくる

生活支援コーディネーター

- 協議体の構成員や地域の活動者から支持される人選を行う
- 体制強化の必要性や追加配置による効果、既存の職員との役割分担や連携について考え方を整理し、生活支援コーディネーターとして配置する

住民主体の生活支援サービス

- 「サービスB」、「一般介護予防事業」を活用する
- 介護部門の職員が利用者の生活の場に出向き、住民とチームになって支えていく

地域福祉・生活支援拠点づくり

- 地方創生の交付金による「小さな拠点（多世代交流・多機能型の福祉拠点）」等の活用

社会福祉法人との協働

- 社会福祉法人・施設の連絡会を組織したり、協議体にも社会福祉法人・施設の参画を呼びかけていく

平成28年6月22日 / 全社協地域福祉推進委員会・介護サービス経営研究会幹事会より引用

RIPPLE リプルとは、波紋のことです。この広報紙は、赤い羽根共同募金の配分金により発行されています。



とくしま県民活動プラザ

770-0873 徳島市東沖洲2丁目14番地  
沖洲マリナーミナルビル1F  
tel: 088-664-8211 fax: 088-664-5345  
e-mail: info@plaza-tokushima.com  
http://www.plaza-tokushima.com  
http://www.tokuvvc.jp



マスコットキャラクター プラザ



今回の特集は、品質に問題がないにも関わらず、お店や企業などで販売できない食品・食材を寄贈してもらい、必要とされている方や福祉施設などに無償で提供する活動をされている「NPO法人フードバンクとくしま」さんをご紹介します。

ひと36号 september.2016 CONTENTS

特集 NPO法人フードバンクとくしま 「もったいない」から「ありがとう」

ひと ことばは宝石 朗読サロン「さざなみ」グループ 主宰 住友 美代子さん

シリーズ・このひとから 日本百名山「百の頂きに百の楽しみ」九弥 NPO法人 阿波勝浦井戸端塾 塾長 稲井 稔さん

地域に根ざすボランティア 那賀町社会福祉協議会 榎森 節子さん

ハートリレー No.36 五反田さんから大林さんへ

New face 特定非営利活動法人 美馬蚕糸館 代表理事 前田 豊太郎さん



「フードバンクの日」  
提供していただいた野菜

NPO法人  
**フードバンク  
とくしま**



子ども食堂  
第1回 8/6 (土) 開催  
・お食事タイム  
・みんなで遊ぼうタイム  
主催：いきいき安心とくしま  
子ども食堂運営委員会



人形劇 小さい子どもたちへの啓発活動 「フードドライブの箱」

食材を生かし、直にお渡しするということ

にしだ ふじよし  
理事長 西田 藤義さん

フードバンクとくしまでは、まだ食べられるにも関わらず、食品や食材が捨てられるのはもったいない、という精神から生活困窮者や福祉施設等に食品等を提供する活動を行っております。しかし、生活困窮者にお渡しすることは状況把握やプライバシー等の問題があり、容易なことではありません。けれど、直にお渡しできる方法をとることが大切なことだと思っています。日本では、6人に1人が貧困状態にあると言われ、深刻な状態では電気も使用できず、米を炊くことや、調理器具がないため野菜を切ることも難しいのです。



私たちは、生活困窮者が少しでも温かく年越しができるよう、年末に3日間の食料や衣類等生活に必要なものをお渡しする越年支援も行っております。これも皆さんの温かい寄付によるものです。平成27年には、延108名の方にお渡しすることができました。

フードバンクとくしまは、当初は任意団体でしたが、平成25年に特定非営利活動法人になりました。まだ知名度は低いけれど、協力して下さる関係団体やネットワークを大切に、今後、全国的な組織として活動していきたいと思っています。

NPO 法人  
フードバンクとくしま  
理事長 西田 藤義

〒770-0942  
徳島市昭和町3丁目35-2労働福祉会館別館ヒューマンワーくびあ3F305号室  
TEL: 088-679-1919 FAX: 088-679-1920  
E-mail: foodbanktokushima@orion.ocn.ne.jp HP: http://foodbank.roukyou.gr.jp

「もったいない」から「ありがとう」

かわかみ けんた  
副理事長 川上 健太さん



フードバンクとくしまが大切にしていることとして中間的就労の創造があります。これは、ひきこもりなどの理由から仕事に就くことが難しい若者に就労の場を提供するものです。コミュニケーションを取ることが苦手な彼らに、外出というきっかけや人と接する機会をつくり、信頼関係を築いてもらいたいと思っています。また、種を植え、水をやり、自らが世話して収穫した立派な野菜が売り物になる、という喜びを味わうことで就労意欲が高まるような農園を目指して、2015年9月にフードバンクとくしま農園を立ち上げました。今までに1人がここをきっかけに他へ就職しました。

フードバンクとくしまは、「もったいない」から「ありがとう」を合言葉としています。この言葉は魔法の言葉です。活動を通し、様々な団体の方とのネットワークの輪が広がっていくからです。今の世の中には、困っていても、「助けてほしい」と声を上げにくい風土があるように感じます。「もったいない」から「ありがとう」と気軽に言え、支え合える社会を目指し、これからも活動を続けていきたいです。

次世代を担う子どもたちに

さえき まさこ  
事務局長 佐伯 雅子さん

子どもは次世代を担う大切な存在です。しかし、生活困窮のために満腹に食べることができない子どもたちがいることは非常に憂うことです。私たちは、吉野川流域の豊かな土壌を媒体に、子どもたちに時間をかけて高品質なものを提供したいと思い、勤労者福祉ネットワークなど力強い団体と協力し、子ども食堂を立ち上げました。「食」は「人」に「良い」と書きます。子どもたちに、食べる楽しみ、体をつくる喜びを味わってもらいたいです。また、学習支援や遊びなどにおいて安全安心面にも配慮し、彼らの居場所づくりにも力を入れていきたいと思っています。

誰しも、いつ何がきっかけで、生活困窮状態に陥るかもしれないという潜在的不安を抱えています。そのため、フードバンクとくしまでは子どもから高齢者まで、幅広い世代と交流でき、互いに協力し、助け合える相互扶助の関係を築いていきたいです。そして、ここを気軽に訪れることができるような開かれた場所になることを目指し活動していきたいと思っています。



「最後のセーフティーネット」として

こにし ゆき  
事務局次長 小西 由紀さん

「フードバンクの日」の活動は、品質には問題はないのですが、賞味期限が近いなどの理由で販売できない食品・食材を寄贈していただき、毎月第2、第4土曜日の午後に福祉施設やDV被害女性支援団体等に無償でお渡しする活動です。また、職場や一般の方から、家庭で余っている食品を寄付していただく「フードドライブ」の箱を県内の公民館やカフェなどの協力事業所に設置しています。



目標は希望する人に、希望する量を渡せること、そのため、常に一定の量を確保できる状態にしておきたいのですが、なかなか難しく、今後の課題でもあります。

以前、越年支援の時に、ある女性が、DV被害からお子さんと着の身着のまま逃げたことがありました。子ども服など生活に必要なものを幾つかお渡しすることができ、その後は、社会福祉協議会の協力のもと、支援の体制が整ったと聞き、安心しました。

社会には様々な理由で生活が困難な状態の方がいます。フードバンクとくしまは、「最後のセーフティーネット」と言われるように、「ここに来れば何とかなる」という場所にしたいですし、何より困っている方々に「応えられる」ような支援を継続していきたいと思っています。

(向井 亜里紗)



ことばは宝石

今回は、朗読サロン「さざなみ」グループ 主宰 住友美代子さんにお話をうかがいました。住友さんは、朗読クラブ「藍玉（あい）」結成以来、朗読一筋に20年活動されています。朗読を始めたきっかけやこれまでの活動経歴やエピソードを交えながら、住友さんの朗読に対する思いをお伝えします。

住友さんは、幼少のころお父様の膝の上で「古事記」のお話をよく聞いていたそうです。

その経験から、神への信仰心も旺盛で、神話にも関心をもたれています。夢の中でも神の愛のようなことばがわきおこってくることもあり、枕元にはすぐにメモできるように鉛筆とメモ用紙を置いているそうです。宗教団体からの講演依頼を受け、各地で講演活動も行っていました。ある時、講演で話す自分の肉声をテープで聞き、衝撃を受けました。それは、丁寧に話していたつもりが阿波弁を多用し、わかりにくい表現をしていたことです。そこで、54歳のとき、NHK日本語センター朗読サロンで朗読を学び始めました。それが、朗読との出会いでした。

2001年朗読サロン「さざなみ」を主宰。同年、日本朗読協会主催第1回朗読コンテスト最優秀賞受賞。NHKビデオ「四国遍路」に出演。

2003年には、名作朗読会「竹取物語・耳なし芳一」を初演し、称賛を浴びたそうです。以降、国民文化祭、県民文化祭、県立図書館、徳島大学等で公演したり、徳島県総合大学校朗読文化講座において講師を務めたりして、幅広く活躍されています。

これまでの活動の中で最も印象に残っているのが、現代語訳での人形浄瑠璃「傾城阿波の鳴門」の朗読をしたことだそうです。お鶴の声を出すために練習を重ね、腹式呼吸で3オクターブ出せるようにしました。にもかかわらず、義太夫の語りとは違うと一部の人から非難され悔しい思いもされたそうです。しかし、公演終了後、ある一人のおばあちゃんが「現代語訳だからよくわかった。今まで意味もよくわからず聴いていたが、今日は内容がよく分かり、感動して涙が出てきた」と声をかけてくれました。その一言で、住友さんは、「現代語訳でチャレンジしてよかった、朗読を続けてきてよかった」と晴れ晴れとした気持ちになったそうです。

取材中にも、私一人のために朗読をしてくださいました。まさに話の世界に引き込む語りで、登場人物の心情を深く理解した朗読でした。そして、何とも言えない微妙な言い回し、心打つ音色。私は、これが「さざなみ流」なのだと実感しました。住友さんは、ことばは宝石。宝石は輝いていないといけない。だから、ことばを発するときには、一音一音丁寧に心を込めて表現するのだとおっしゃいました。

「今後の展望は？」という質問に、住友さんは、「お客様の喜びが活力となっている。だから、声の続く限り現役でやりたい。そして、朗読を通して世の中のために、社会に貢献していきたい」と力強く語られました。（菊本 佳孝）



朗読サロン「さざなみ」グループ

すみ とも み よ こ  
主宰 住友 美代子さん  
連絡先 088-664-3655

シリーズ・このひとから

日本百名山 “百の頂きに百の楽しみ” 九弥

い ない みのる  
NPO法人 阿波勝浦井戸端塾 塾長 稲井 稔

教員生活退職後16年間で猛スピードで過ぎ去った。その間毎年続けていること。登山家、文学者である深田久弥氏による「日本百名山」の登山に挑戦していることである。山の好きな友人20名で鹿背山山岳部を結成した。

今までに富士山、仙丈ヶ岳、白山、立山、八ヶ岳等26峰を踏破することができた。それら名峰の中でも、記憶に強く残っているのが高山の魅力なエッセンスを凝縮させた感があり、プロポーションも抜群の白馬岳（2932メートル）に17名の仲間達とで完登したことである。（平成13年7月）



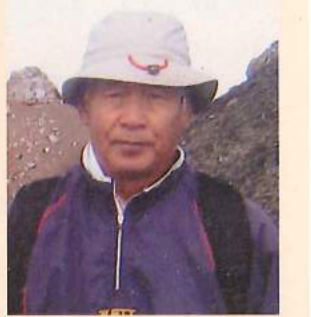
午前5時 朝露の立つ中、登山口

稲井 稔

元祖ビッグひな祭り実行委員会 理事長、勝浦町老人クラブ連合会会長、勝浦町社会教育委員長、徳島県退職公務員連盟副会長、元勝浦町教育委員会 教育長、元県立高等学校 教師・野球部監督、元保護司

猿倉をリュックを背負い、山頂に礼拝し気分も爽快に出発した。白馬尻小屋でアイゼンをつけ急斜面、標高差600メートルの日本有数の大雪渓に挑戦。雪渓上は表面は氷のようにすべりやすく、また落石の危険性もあるが涼しく歩行は順調に進む。途中何度も下方をふり向くと登山者の行列のラッシュ。さすが北アルプスの名山である。多くの高山植物も疲れをいやしてくれる、澄みきった青空に浮かぶ真っ白な一片の雲は手が届きそうである。午後3時頂上白馬山荘に到着。頂上からは何の遮るものもなく壮大な北アルプスの山々が連なっている。仲間達の顔は、成就感と大自然の芸術品を心ゆくまで観賞している。

名山には、品格・個性・歴史がある。8月11日山の日には、谷川岳の勇姿に逢いに行ってきた!!



地域に根ざすボランティア

那賀町社会福祉協議会相生支所

ボランティアコーディネーター

かしまり せつこ  
檜森 節子

合併前の相生町社協より継続して行っている業務を機軸に、地域性や需要の変動に合わせて必要な事業・支援を展開しています。主にはボランティアの相談窓口・情報提供、ボランティア連絡協議会の運営支援、ボランティアグループ・地域活動団体等への活動支援、児童生徒のボランティア活動推進事業（学校における福祉教育・ボランティアスクール）実施などです。

相生地域では以前からボランティアグループによる独自の活動が活発に行われており、それぞれに目的を持った主体的な取り組みが続けられています。住民のボランティアに対する考え方も柔軟で、協力的な方が多いという特徴もあり、それは合併後の那賀町となった今でも変わりません。山間部の過疎地なので、できるときにできることを手助けするといった地域住民相互の支えあいシステムが自然に根付いているのかもしれない。

しかし、住民の高齢化によりボランティア

人数が減少したり、必要とされるボランティアの内容が変わってきたりとさまざまな課題も抱えています。コーディネーターとして、住民参加の支えあいシステムを上手く活用しつつ、新しい形のボランティアを提示し広げていくことと、地域で必要とされるボランティアの力を絶やさないよう、次代の育成にも力を注いでいきたいと思っています。



那賀町ボランティアのつどい



ボランティアスクール

## イベントガイド

### 紙芝居ボランティア「おしゃべりくまさん」 オータム特別公演 IN 夜の動物園

日 時：平成28年10月1日(土) 19:40~20:10  
10月8日(土) 19:00~19:30  
場 所：とくしま動物園内(徳島市浜野町入道22-1)  
10月1日(土)は『てつたろう休憩所』  
10月8日(土)は『動物園センター』  
内 容：紙芝居・大型絵本・パネルシアター・手品の上  
演及びうた・手遊び・クイズ阿波踊り体操の実施  
お問い合わせ：紙芝居ボランティア「おしゃべりくまさん」  
事務局 TEL: 080-6383-2178

※現在  
毎月第1日曜日  
12:30~  
13:00  
同動物園「動物園センター」  
にて上記内容  
の定期公演も  
好評開催中!



## 第12回

### とくしまNPO・ボランティアフェア

日 時：平成28年11月3日(木・文化の日)  
10:00~16:00  
場 所：新町川水際公園  
主 催：とくしまNPO・ボランティアフェア実行委員会  
団体の活動紹介、活動により作成された物品の販売など、活動PRのチャンスです。

みんなで一  
緒に盛り上げ  
ましょう!  
※詳しくは、  
とくしま県民  
活動プラザま  
でお問い合わ  
せください。



## ハートリレー

No.36 五反田さんから大林さんへ



### NPO 法人山の薬剤師たち おおばやし ひで き 大林 英樹さん 山・海・人を愛するナイスGAY!

大林さんと初めてお会いしたのは、緩和ケアネットワークの勉強会でした。名刺を拝見したとき、「山好きの薬剤師の方が集まっている?」と一瞬浅薄な考えがよぎりました。

30年ぶりに徳島にUターンした私は、木屋平がどなたのところかも知らぬにありました。

へき地で地域医療に取り組む薬剤師の存在を徳島に戻って初めて知りました。大林さんが勤務するこやだいら薬局は、処方せんによる調剤や風邪薬などの一般用医薬品を提供する単なる「薬局」ではなく、医師、看護師、保健師、ヘルパーや住民などと連携しながら地域医療に取り組む「薬局」です。処方された薬が正しく飲めない方や日常生活がご自身で行えない方など定期的に訪問して服薬支援や生活状況の確認を地域みんなで取り組み一人ひとりの暮らしの安心を支えていらっしゃいます。「僕らは目立たなくていいんです」とこやかにおっしゃるその瞳には、訪問を楽しみに待っている方々の姿が映ります。

文・五反田千代



## New face 特定非営利活動法人 美馬蚕糸館

### ■ 設立について

徳島県はかつて西日本でもトップクラスの蚕の生産地でした。しかし、近年生糸は衰退の一途をたどり現在では蚕を作る農家はほとんどなくなりました。私たちは生糸および絹製品の良さを広く知ってもらい、伝統を守っていききたいとの思いから、再び養蚕活動を始めるとともに長く継続させていくことを目的にNPO法人を設立しました。



代表理事 ままだ とよたろう  
前田豊太郎さんご夫妻

### ■ 現在の主な活動

蚕の糸はとても細いので、細く柔らかいままで使用することが基本ですが、私たちは、強く太い糸を作ることに挑戦しました。その糸を使い、試行錯誤を重ねながら、色々な小物などを作って販売し活動資金に充てています。また、地元の小学生に蚕糸を実際に触れてもらう機会を設けたり、地元の高校の授業に養蚕を取り入れてもらい生徒に蚕の飼育を学んでもらっています。生徒さんは「学んだ事を学校での飼育に生かしたい」と話してくださいました。

### ■ これからのビジョン

最近になり、蚕糸蛋白には人工血管などの生体材料としてきわめて適した性質があることが明らかになってきており、蚕糸は再び注目を浴びています。今後、伝統ある養蚕業、製糸業を維持・発展させていく為に、後継者を育成していきたいと考えています。



### 特定非営利活動法人 美馬蚕糸館

設立年月日：2015年3月17日  
住 所：〒771-2107 徳島県美馬市美馬町谷口5-1  
TEL：0883-63-2502  
MAIL：sanshikinenkan@shirt.ocn.ne.jp

## とくしま県民活動プラザ

●プラザは、ボランティア・NPO・地域づくりなど、県民の皆さんの自主的、自立的活動を総合的に支援する拠点として平成14年にオープンしました。運営は(認定特非)とくしま県民活動プラザと(社福)徳島県社会福祉協議会・とくしまボランティア推進センターが協力して行っています。

●プラザ開館時間  
開館時間：10:00~18:00  
【研修室利用時間】  
火曜日~土曜日：10:00~21:00  
日・祝日：10:00~18:00  
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始



### ● 公共交通機関をご利用の場合 ●

JR徳島駅前、徳島市営バスターミナル6番のりばより、  
・「中央市場」行きに乗車 終点「沖洲マリナーミナル」下車すぐ  
・「沖洲・南海フェリー前(マリニピア経由)」行きに乗車「マリナーミナル前」下車すぐ

## 編集後記

4月にプラザに仲間入りさせていただき、半年が経ちました。毎日、プラザをご利用いただく皆さんの方々にお会いしますが、どの方も生き生きと笑顔が素敵で元気を分けていただいています。加えて、社会貢献活動の大切さを体験を通じて感じ、学ばせていただけることに感謝しています。まだまだ不慣れでご迷惑をおかけすることがありますが、プラザでの出会いを大切に、いろいろなことに挑戦して成長していきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。(山田 奈津)

### 「成人歯科健診を推進しています」

一般社団法人  
徳島県歯科医師会  
徳島市北田宮1-8-65  
電話 088-631-3977



### くすりのご相談は かかりつけ薬剤師・薬局へ!



一般社団法人  
徳島県薬剤師会  
会長 水口 和生  
TEL 088-655-1100  
FAX 088-655-6991

### 徳島県医師会は「禁煙」を推進しています!



一般社団法人  
徳島県医師会  
会長 齋藤 義郎  
徳島市幸町3丁目61番地  
TEL 088-622-0264

CLE NUP 吉野川をきれいに!  
参加団体、募集中。

吉野川交流推進会議  
〒770-8570 徳島市万代町1丁目1番地  
県民環境政策課内  
TEL 088-621-2743  
FAX 088-621-2758  
E-mail office@yoshinogawa.org  
http://www.yoshinogawa.org

# 地域生活支援と私



社会福祉法人愛育会  
指定障害福祉サービス事業所 なごみ  
就労支援課長 林 弥生

社会福祉の現場で働く方を講師として招いた大学の講義で私はその人と出会いました。知的障がいのある人たちの「地域生活支援」が自分の仕事だと言うその人は、ただ、ただ、楽しそうに自分の仕事の話しをしました。「そんなに楽しい仕事なら、見てみたい！」と、その人の仕事場に押しかけました。数年後、その人は私の上司になりました。こんな風に人と出会って、仕事に就くことができた私はとても幸せだと感じています。

「地域生活支援」の現場に出た私は、先輩、同僚、町の人たち、会社の人たち…たくさんの人たちに育てられながら仕事をさせていただきました。中でも、圧倒的な力で私を育ててくれたのは、私が出会った障がいのある人たちでした。こちらが提案した支援に「NO」と意思表示される度に自分本位に支援を組み立てていた傲慢さを思い知らされ、「…それで、本人はどう思っているの？」と上



司に尋ねられて即答できない度に、「当事者主体」を口先だけで語っている自分のスタンスを問われました。先進地の見学や好事例を学ぶ研修も大切でしたが、いつも支援のあり方をはっきりと教えてくれたのは目の前にいる人たちでした。

私が働き始めて20年が経とうとしています。この間、「地域生活支援」にまつわる制度は激変しました。確かに支援内容や現場で働く人たちの職種は増えましたが、

どれだけ制度が変わっても、私たちが大切にすべき支援の本質は変わっていないと実感しています。何十年前も前、入所施設で働く先輩たちは、会社の実習のお願いに出向き、通勤支援をし、仕事を覚えるための支援を行っていました。インクの文字が滲んだ手書きのケース記録を目にする時、就労支援の制度が整っていなかった時代でも、目の前にいる人たちの「働きたい」という思いや「働ける」という可能性を信じた先輩たちの奮闘の日々を身近に感じることができるからです。

町の中で暮らし続け、働き続けていくことを障がいのある人たちと実証していくこの仕事は、とてもクリエイティブな仕事だと感じています。「地域生活支援」の醍醐味を伝えてくださった先輩に、「あなたの言っていた通り、この仕事は奥深く、楽しく、おもしろいですね！」とお返ししたいと思います。数ある仕事の中からこ



の仕事を選び、一緒に働く人たちが増えていくよう、私もこの仕事を楽しめ、感じたことを発信し続けたいと思います。



## “平成28年熊本地震”における徳島県内社会福祉法人の支援活動

平成28年4月14日及び4月16日に発生した地震の影響によりお亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様にお見舞申し上げます。

徳島県社会福祉協議会では、全国社会福祉協議会からの応援要請に基づき、四国ブロック各県の社会福祉協議会とともに、「災害ボランティアセンターの運営支援」や「生活福祉資金緊急小口資金特例貸付支援」に職員派遣を実施しました。

混乱がつづく被災地に向けて、各種別協議会による物資や義援金の支援が行われる一方で、県内福祉関係者による被災地支援バスでは、嘉島町・南阿蘇村の要援護者世帯のボランティアニーズへの対応や、福祉避難所等でのレクリエーション・介護業務による利用者支援などに努めました。

被災地では、生活再建や復興に向けて生活支援・地域交流等の総合的な支援が進められています。今後も各関係機関・団体と連携し、熊本の皆様の一日も早い復旧・復興を応援してまいります。

### 本県社会福祉協議会による被災地支援に関する派遣

### 本県社会福祉関係者による被災地支援

#### 災害ボランティアセンター運営支援

- 嘉島町 (4月28日～5月30日) 派遣数13名・活動日数13日
- 熊本市 (6月23日～7月21日) 派遣数8名・活動日数12日

#### 生活福祉資金緊急小口資金特例貸付に係る支援

- 熊本市 (5月6日～5月13日) 派遣数2名・活動日数8日
- 宇城市 (5月9日～5月13日) 派遣数1名・活動日数5日

#### 被災地支援バスによる支援

- 嘉島町災害ボランティアセンター
- 南阿蘇村福祉救援ボランティアネットワーク (5月10日～5月13日) 社協職員14名 福祉施設職員5名

#### 被災地ニーズへの支援

- 介護用品・経口補水液等の物資支援
- 徳島県市町村社協職員連絡会 徳島県老人福祉施設協議会 徳島県ホームヘルパー協議会 徳島県身体障害者施設協議会

**ごあいさつ** ●株式会社マルナカ徳島店様より、社会福祉協議会等へ日用品のご寄贈 ●ドリームサーカス株式会社様より、福祉施設へ徳島公演(平日分)の無料ご招待 ●霊友会様より、特別養護老人ホームねりんへ介護用歩行器のご寄贈 ●徳島県阿波牛販売推進協議会様、徳島県食肉荷受株式会社様より、児童養護施設へ阿波牛のご寄贈 ●全国農業協同組合連合会徳島県本部様、JA徳島農政協議会様より、県内児童養護施設へ阿波そだち(コシヒカリ新米)のご寄贈

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

平成28年度

## ボランティア活動保険

全国200万人加入!!

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険 検索

(※)天災タイプでは、天災(地震、噴火または津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが(天災危険担保特約条項)、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

### 補償金額(保険金額)

| 保険金の種類           | プラン      | Aプラン                        | Bプラン         |
|------------------|----------|-----------------------------|--------------|
| ケガの補償            | 死亡保険金    | 1,200万円                     | 1,800万円      |
|                  | 後遺障害保険金  | 1,200万円(限度額)                | 1,800万円(限度額) |
|                  | 入院保険金日額  | 6,500円                      | 10,000円      |
|                  | 手術保険金    | 65,000円                     | 100,000円     |
| 賠償責任             | 入院中の手術   | 65,000円                     | 100,000円     |
|                  | 外来の手術    | 32,500円                     | 50,000円      |
|                  | 通院保険金日額  | 4,000円                      | 6,000円       |
|                  | 特定感染症の補償 | 上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ |              |
| 葬祭費用保険金(特定感染症)   |          | 300万円(限度額)                  |              |
| 賠償責任保険金(対人・対物共通) |          | 5億円(限度額)                    |              |

### 年間保険料(1名あたり)

| タイプ   | プラン      | Aプラン | Bプラン |
|-------|----------|------|------|
| 基本タイプ |          | 300円 | 450円 |
|       | 天災タイプ(※) | 430円 | 650円 |

### 保険金をお支払いする主な例



### ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

### 送迎サービス補償

(傷害保険)

### 福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引継ぎ先〉損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第三課  
TEL:03(3593)6824  
受付時間:平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763  
営業時間:平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)  
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

これからも、いつまでも  
頼りがいのある銀行として、  
地域のみならずとも歩んでまいります。



ずっと、ここから。120 阿波銀行  
<http://www.awabank.co.jp/>

環境にやさしい銀行を目指し  
環境保全活動に取り組んでいます。



徳島銀行  
<http://www.tokugin.co.jp>

# 新しい地域支援事業への取り組み

## 鳴門市

### 鳴門市における新しい地域支援事業

鳴門市では、平成28年度から「介護予防・日常生活支援総合事業」を本格実施しています。新しい総合事業の、訪問型サービス提供を開始した事業所は20カ所程度で、他の事業所も、市の指導で順次新しい総合事業に移行しています。

市では、介護福祉士資格を有しない方を対象に「生活支援サポーター養成研修」を定期的に開催し、修了（登録）者は、シルバー人材センターなどの事業所が「えぶろんサービス」と名付けた訪問型サービスA2を提供しています。一方、鳴門市社会協ヘルパー事業所では、総合事業の訪問介護サービス緩和型のA1・A2を実施しています。

また、行政や社協構成組織との連携で、地域の支え合い活動・介護予防事業としての「サロン」設立が活発に行われ、今後は通所型サービスBの担い手として期待が出来ます。

社協では平成27年9月に市から受託を受け「基幹形地域域包括支援センター」を設置しましたが、市内5カ所の地域型地域包括支援センターの機能強化を図る取り組みの一環として、保険者・介護予防支援・サービス提供事業者等の多職種で、利用者の自立に向けた支援や重篤化予防の視点でアドバイスやケアプラン見直し指導を行う「自立支援ケア会議」を開催しています。さらに社協では、平成29年度を目

途に、市や市民と協働で「鳴門市地域福祉計画」「地域福祉活動計画」を一体的に策定する取り組みに着手しています。今後は「市民会議」や「地域座談会」を開催し、専従配置した第一層の生活支援コーディネーターと連携しながら、住民主体の計画づくりに努めていきます。



新しい総合事業による介護予防・生活支援活動はじまる！  
特定非常利活動  
法人生涯現役応援  
隊は、町の補助を受けて「介護予防」「閉じこもり予防」「健康づくり」に取り組んでいます。  
新しい総合事業の住民主体による通いの場（サロン活動）や介護予防教室では、いきいき百歳体操や音楽レクリエーションなどを行っています。これらの運営は、住民ボランティアを中心に行うことで、地域住民が共に元気で過ごせる地域づくりを目指しています。参加者からは、口コミで「楽しかった。身体を動かしたり、音楽レクリエーションで歌を歌ったり、ティータム時は懐かしい昔話に花を咲かせたり、気持ちやすとした。今度は一緒に「こうな」などの呼びかけで徐々に参加者が増えていきます。また、サロン活動などを通じて、参加者との会話を大切に、介護予防や体操のメニューづくりに生かしています。  
これからも、住民主体で参加しやすい介護予防活動を推進することで、住民の皆様が生涯現役で安心して暮らせるよう、地域に根差した生活支援の担い手の拡充を目指しています。  
また、神山町社協では、関係機関と連携し、生活・福祉課題の聞き取り調査の実施をはじめ、人材育成支援等による地域づくりを進めています。

## 徳島県社会福祉協議会 植田新会長就任

### 就任にあたり

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会  
会長 植田 和俊



本年七月一日、徳島県社会福祉協議会会長に就任いたしました。  
近年、少

子高齢化の進行、人口減少、過疎化、高齢者世帯、単身世帯の増加などを背景として、地域における生活・福祉ニーズは複雑・多様化し、さらには、住民同士のつながりの希薄化や家族機能の低下、経済格差の拡大も相まって社会的孤立や生活困窮、介護、子育てに対する不安など、多様な生活課題が顕在化しております。

こうしたなか、法改正への対応をはじめ、社会福祉関係者等との連携・協働により「県民一人ひとりがお互いに支え合いながら身近な地域で、そのひとらしく、安心して生き生きと暮らせる福祉社会の実現をめざして」の基本理念のもと、地域福祉のさらなる推進に邁進してまいり所存でございます。

今後とも、より一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

## 社協の実践

## つもに生きる豊かな福祉社会を目指して

### 市内64の地区住民福祉協議会による 住民主体の活動を生かして

平成18年3月に旧三好郡内6町村社協の合併により三好市社会福祉協議会が誕生し、合併後早くから住民主体による地域福祉活動の取り組みをすすめて、平成19年には、市内全域にその活動の拠点となる「地区住民福祉協議会」を立ち上げました。現在、64の地区住民福祉協議会が設置され、市および町村単位において情報の共有と連絡調整を目的とする地区住民福祉協議会連合会が設置されています。



地区住民福祉協議会連合会リーダー研修

この地区住民福祉協議会を中心として、地域での住民同士のつながりや助け合い・支えあいを基本とする三好市地域福祉活動計画を策定しました。地区住民福祉協議会が地域のニーズ把握や課題の抽出を行い、行政や各関係団体と協働して高齢者等の見守り活動やふれあいいきいきサロン

活動による相互交流、災害時要援護者の把握や防災訓練等、地域の実情に沿った活動を展開しており、徐々に住民への活動に対する理解と広がりを見せています。

地区住民福祉協議会の運営にあたっては、地域でご協力いただいた賛助会費の7割を上限に活動への助成として、地域に還元される仕組みをとっています。

### ふれあいいきいきサロン

また、若年層の流出により、過疎化・高齢化が急速に進む中、地域活動の担い手不足から地域の活力が低下しており、これまでの支援に加え、地域でリーダーとなる人材の育成にも力を入れています。

## vol.10 板野町社会福祉協議会

### 民生委員・児童委員との協働を強みに

板野町社会福祉協議会では、町内38名（内主任児童委員3名）の民生委員・児童委員が所属する板野町民生児童委員協議会の事務局を担っており、住民の声がより届くことにより、住民の生活・福祉課題の把握をはじめ、私たちの暮らしを良くするための町づくりに反映しています。



独居高齢者等への安否確認

民生委員・児童委員は、地域の身近な相談相手として、支援を必要とする住民と行政や専門機関をつなぐパイプ役としての重要な役割を担っています。板野町民生児童委員協議会で毎月開催する定例会では、先駆的な事例や制度等を学ぶとともに、児童福祉・高齢者福祉・災害支援等の7つの部会を自主的に運営しています。この各部会では、児童の下校時の安全を守るためのパトロールを行うスクールガードや児童館、幼稚園、小学校との連絡会の開催、独居高齢者等への定期訪問による安否確認（見守り声かけ運動）や生活困窮者への食料品の提供、生活支援、災害時に要援護者への安否確認や災害福祉マップの更新等を行っています。

これらの民生委員・児童委員の活動を支える事務局体制や機能は、社協本来の業務と共に、地域福祉の推進における車の両輪となっており、協働、連携を図ることは板野町社会福祉協議会の強みとなっています。

## vol.9 三好市社会福祉協議会



### ふれあいいきいきサロン

また、若年層の流出により、過疎化・高齢化が急速に進む中、地域活動の担い手不足から地域の活力が低下しており、これまでの支援に加え、地域でリーダーとなる人材の育成にも力を入れています。